江戸時代に思いを馳せて

前田十万石の城下町・富山町を通った北陸道（富山市）

②

①

④

③

かつての北陸道は、富山町のどこを通っていたのでしょうか？富山市郷土博物館ホームページの「博物館だより」第十五号をもとに西から見て行きましょう。

北陸道は愛宕（あたご）町で富山町に入りました。その後、64艘の舟を鎖でつないでその上に板をのせた舟橋（日本一の規模）で神通川を渡りました（藩政期には、神通川は左図のように蛇行して流れていました）。県森林水産会館前と舟橋南詰に残る2つの常夜灯の間を歩くと低くなっていますが、これは旧神通川の川底であった名残りです。

舟橋を渡ってすぐの助作川の手前で右折し、旧神通川にぶつかる手前で左折します。しばらく南下し、平吹町で左折。このあたりには、鉄砲町や宿屋が集まる旅籠町がありました。かつてのお堀とぶつかるあたりで右折し、平和通りで左折します。直進し、大和の前を通り、電車通りで左折し、中央通りへ。中央通りは戦前まで、西から中町、袋町、東四十物町という町名で、老舗の多い問屋街だったそうです。戦後小売商店街の形になりました。商店街が終わる少し手前で左折し、中教院通りへ。少し行って右折し、「砂町のだらだら坂」と呼ばれた緩やかな下り坂を通り、雪見通りに入り、雪見橋をわたり北新町交差点へ。斜めの道に入り、於保多神社、越中稲荷神社の前を通り、赤江川橋で赤江川を渡ります。この橋は、藩政時代、富山藩と加賀藩の境界線で、両藩折半で架けられました。GL

⑥

⑤

①県森林水産会館前の常夜灯。②現在の舟橋の南詰の常夜灯。③かつての舟橋をイメージしたデザインの現在の舟橋。④助作川。⑤砂町のだらだら坂。⑥現在の雪見橋。藩政の頃は、北陸道の要衝として、富山一の大橋がかけられて、大名行列が威儀を正して渡ったという。南宗画の大家 池大雅が来遊して橋上に浮ぶ立山連峰に深く感嘆し白雪をいただきそそり立つ麗姿を描いた。これにちなんで雪見橋と名づけられたと伝えられている。